



今年は暖冬かと思っていたら、1月に入ってグッと冷え込む日も多くなってきました。朝登園してくる子ども達は、ジャンパーやマフラーなどの防寒をしてやってきます。各クラスで持ち物の始末やシール貼りなどをしたら、毎朝全園児活動『ぐんぐんタイム』の時間です。寒くなってきましたが天気の良い日は園庭でぐんぐんタイムを行います。音楽に合わせマラソンをした後、年長児の当番さんの合図で大きな声で挨拶をしたり、ペアになって体操やダンスで体を動かしたりします。終わった後は、笑顔とポカポカした体になっています。やはり、一日の始まりに元気な挨拶をすることと体を動かすことは、心と体を目覚めさせ、その後の楽しく意欲的な活動につながっていきますね。

みんなで気持ちの良い幼稚園にしよう

・16日(火)のぐんぐんタイムの後、1月のぴかぴかデーで園庭の落ち葉や枯れ枝などをみんなで拾いました。「この枝、危ないね」「大きな葉っぱ、みつけた」など、もう教師の声掛けがなくても自分達で枝や葉っぱを拾っていました。終わって保育室に入ってきた子ども達は「手が冷たくなっちゃった」「でもきれいになって気持ちがいいね」と、自分達の行動で幼稚園がきれいになった気持ちよさを感じていました。

・ぴかぴかデーの後、年中組へ行ってみると、年中児に向かって年長児が何やら語り掛けています。聞いてみると、「年長さんはもうすぐ小学生になるから、これまでしていた幼稚園のお当番の仕事を年中さんをお願いします」という当番の引継ぎの話でした。「誕生会の司会は、誕生会の名前を考えたよ、ペンダントを準備したりするんだよ」「ぐんぐんタイムのリーダーは、前に出て手本になって踊るんだよ」「うさぎ当番もするよ。餌やりだけじゃなくお掃除もするんだよ」と、自分達がしている当番の内容を一生懸命伝えます。聞いている年中児も、「うわあ、たくさんあるね」と言いつつ、今度は自分達が幼稚園のリーダーになるんだという気持ちが少しずつ実感として湧いてきたようで「できるよ!」「大丈夫」「まかせて」といった前向きな言葉がたくさん出てきました。顔つきもなんだかやる気に満ちているようでした。きっと、これまで年長児のしている様子を見て、憧れの気持ちも抱いていたのでしょね。うさぎ当番は、互いのクラスから2人ずつ出て、実際に一緒に当番をしながら引き継いでいくようです。これまではクラスの当番活動をしていた年中児が、これからは幼稚園みんなが気持ちよく生活するためのいろいろな当番・リーダーを引き継ぎます。その様子はまたお知らせしますね。頑張れ!年中さん!!



「幼稚園のお庭をきれいにしよう」「お当番さんお願いね」「まかせて」

バースディプロジェクトを行いました

この数年、毎年年長児とその保護者を対象に行っている「バースディプロジェクト」。助産師さんを講師に、「赤ちゃんはどうしてできるのか、どこから生まれてくるのか」といった子どもにもわかりやすい性教育を、エプロンシアターや紙芝居、出産劇を通して教えていただきました。出産劇では生まれる瞬間「がんばれー」と応援したり、本物の赤ちゃんの重さの人形を抱っこしたり、心臓の音を聞いたりして、みんなが祝福されて生まれてきたこと、自分の命も人の命も大切にすること等を学びました。照れたりする場面もありましたが、年長児は真剣に見たり聞いたりしていましたよ。

その後、参加された保護者の方と助産師さん、保健師さんで座談会をしました。「子どもに性に関することを聞かれた時に答え方に迷う」と言う意見もありました。助産師さんからは「答えられる範囲で子どもと会話をしていくことが大事。そのつながりは思春期に生きてくる。わかりやすい絵本なども出ているので参考にしてほしい」とアドバイスをいただきました。みんなの命を喜び合える会話ができていくと素敵ですね。



最近の各クラスの様子

・年少組では、手回しゴマ・絵合わせカード・福笑い・風船羽根つきなどのお正月遊びが盛んです。友達が何人か集まって「せーの」の掛け声でフープの中に向かって手回しゴマを回したり、言葉を交わしながら一緒に絵合わせカードを楽しんだり、一人でじっくりと福笑いに取り組みだり……。自分なり、自分達なりの遊び方で繰り返し楽しんでます。また、遊戯室では「色鬼ごっこ」をしていました。教師が「みどり！」と色を言ったら、その色のものを見つけてタッチします。なかなか見つからないと鬼役の教師につかまってしまうので必死です。多くは壁やピアノなど物の色を見つけますが、中にはピンク入りの服を着た友達を見つけて「ピンク、あった」という姿も……。お正月遊びも鬼ごっこも、友達と遊び方を守ろうとしたり、遊びながら顔を見合わせて笑ったり・・・友達との関わりがより増えてきて、ますます遊びが楽しくなりそうです。



「あっ、同じ絵だね」 「せーのでコマを回そう」(年少児)

・年中組では、18日(木)にある入園前健康診断で、来年度の新入園児にあげるプレゼント作りに取り組んでいます。プレゼントを入れる袋の飾りつけで「見て、きれいに色を塗ったよ」「こんな形の折り紙になったよ」と、新入園児が喜んでくれるようにという気持ちが感じられます。また、その袋の持ち手には、スズランテープを使った三つ編みに挑戦しています。最初はなかなか難しく「先生、どうだったっけ」「あれ、おかしいな」など上手くいきませんでした。繰り返し根気よく続けているうちに三つ編みができていくと、とても嬉しそうでした。袋の持ち手が出来上がった後も、できるようになった三つ編みを楽しみ、ネックレスなどを作って自分でつけたり、教師にプレゼントしてくれたりします。少し難しいことに挑戦し、頑張ったらできたという自信と達成感、「私(ぼく)って、なかなかやるじゃん！」という思いが年長組へとつながっていくのではないのでしょうか。



「三つ編み、できたよ!」「ドッジボール楽しいね」(年中児)「難しいけど頑張るよ」「落款の字は名札と一緒に」(年長児)

・年長組では、登園して身支度を終えると遊戯室で難しい運動遊びに挑戦しています。跳び箱、竹馬、一輪車、どれも少し練習したらできるというものではありません。繰り返し挑戦し、時には転んだり、竹馬を挟む足の指の皮がむけたりすることもあります。それでもあきらめずに続けるのは、“乗れるようになりたい”“竹馬で遊戯室を何周もしたい”“もう一段高い跳び箱を跳びたい”という強い願いをもっているからでしょう。一輪車の手放しが少しできた時などは大喜びでさらに挑戦する姿が見られます。でも、できるようになることばかりではないかもしれません。できないもどかしさや悔しさを感じることもあるでしょう。そんな気持ちにも教師は寄り添い、挑戦している気持ちを認め、たとえ思った様にできなくても、頑張ってきたことは決して無駄ではないと感じ取れるようにしたいと思います。それがこれから小学校以降の意欲となっていくと思います。

また、年長の保育室へ入ると、自分の名前を書いた書初めが貼ってありました。どの書初めもととても素敵です。一字一字心を込めて丁寧に書いたことが伺えます。消しゴムで『落款印』も作りました。自分の名前の好きな一文字を紙に書いて消しゴムに転写し、担任に掘ってもらい、それを書初めに押しします。ここで気をつけなければいけないのは、落款に限らず印は全て逆さ文字になっていること。自分の名札などを見ながら逆さになるように一字を書き、それを手洗い場にもっていくので、何をしているのかと思えば、鏡に映してみても正しい字になっているのか確認していました。生活の知恵だなあと感心しました。落款印を押した書初めの素晴らしい事!小さな書道家さん達も満足そうでした。